

マクロの
基礎知識 1VBAの
基礎知識 2プログラミングの
基礎知識 3

セルの操作 4

ワークシートの
操作 5Excelファイルの
操作 6高度な
ファイルの操作 7ウィンドウの
操作 8リストの
データ操作 9

印刷 10

図形の操作 11

グラフの操作 12

コントロール
の使用 13外部アプリケーション
の操作 14

VBA関数 15

そのほかの操作 16

付録



Array関数の使い方

各列のデータを変換する形式は、Array関数を使用して「Array(列番号,変換する形式)」という形で記述します。そして、これらのArray関数を要素とするArray関数を記述します。したがって、引数FieldInfoに記述するArray関数は「Array(Array(1,1列めを変換する形式),Array(2,2列めを変換する形式)……)」という形になります。変換する形式はXlColumnDataTypeクラスの定数で指定します。変換する必要がない場合は「1(標準

形式)」を指定します。「9(スキップ列)」を指定すると、その列は読み込まれません。固定長フィールド形式のテキストファイルを開くときは、列番号を指定していたArray関数の1番目の引数に、データの開始位置を指定します。したがって、「Array(Array(1番めのデータの開始位置,1番めのデータを変換する形式),Array(2番めのデータの開始位置,2番めのデータを変換する形式)……)」という形になります。

XlColumnDataTypeクラスの定数

定数	数値	変換する形式
xlGeneralFormat	1	標準
xlTextFormat	2	文字列
xlMDYFormat	3	MDY(月日年)形式の日付
xlDMYFormat	4	DMY(日月年)形式の日付
xlYMDFormat	5	YMD(年月日)形式の日付
xlMYDFormat	6	MYD(月年日)形式の日付
xlDYMFormat	7	DYM(日年月)形式の日付
xlYDMFormat	8	YDM(年日月)形式の日付
xlSkipColumn	9	スキップ列
xlEMDFormat	10	EMD(台湾年月日)形式の日付



固定長フィールド形式とは

固定長フィールド形式は、データの文字数を固定することによって各列の開始位置を判別するファイル形式です。1列めの開始位置は0文字め、2バイトデータは2文字分で計算します。

カンマとタブで区切られた
テキストファイルを開くには

カンマとタブで区切られたテキストファイルを開くときは、OpenTextメソッドの引数DataTypeにxlDelimitedを指定し、引数Commaと引数TabにTrueを指定します。そして、カンマとタブが連続しているので、引数ConsecutiveDelimiterにTrueを指定し、カンマとタブを1つの文字列として扱います。

固定長フィールド形式の
テキストファイルを開くには

固定長フィールド形式のテキストファイルを開くには、OpenTextメソッドの引数DataTypeにxlFixedWidthを指定し、引数FieldInfoに各列のデータの開始位置と変換する形式をArray関数を使用して指定します。次のサンプルでは、Cドライブの[データ]フォルダに保存した[仕入先.txt]ファイルを、1列めを文字列形式、2~3列めを標準形式で開いています。1列めが4文字、2列めが30文字、3列めが40文字で固定されているので、たとえば、3列めは34文字めから読み込んでいます。

サンプル 7-1_002.xlsm / 仕入先.txt

```
Sub 固定長フィールド形式()
    Workbooks.OpenText FileName:="C:\データ\仕入先.txt",
        DataType:=xlFixedWidth, FieldInfo:=Array(Array(0, 2), _
            Array(4, 1), Array(34, 1))
End Sub
```

参照 固定長フィールド形式とは……P.466

参照 Arrayで配列変数に値を格納する
……P.174